



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1936, 25(1): 69-76

ISSUE DATE:

1936-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184515>

RIGHT:

充分な豫備知識を得しめた後、後編に於いて太平洋を繞る國々の現勢を明かにするを主眼として、シベリア・滿洲國・支那・佛領印度支那・シャム・英領マラヤ・フィリッピン・蘭領東印度・オーストラリア・ニューギランド・アラスカ・カナダ・北米合衆國・メキシコ・中米諸國・コロンビア・エクアドル・ペルー・チリ等の自然・風物・人種・歴史等からその現勢、殊に經濟事情等の重要事項に説き及んでよくこれを四六版七百餘頁のうちに纏めてゐるのである。太平洋を繞る諸國に關する認識のために必讀の文字であるのは勿論、世界の大半を占める地球部分の地誌、而も最新の地誌の知識を得るためにも最良の指針となるものである。

(東京市目黒區中目黒二ノ五八二、章華社版、定價三・八〇)(小牧)

雜 報

○日本の貿易に對する獨逸當局の觀察

日本の電球が六布、自轉車が十二馬克などムベラボウに廉いのをかきにかけて日本品排斥を企てる國の多い今日獨逸の統計局長グレーフェル氏は躍進日本の貿易の數字を解剖して、之を獨逸の海外貿易の發展に比べて其間著しき差がない、日本は必しも獨逸の商敵でないといつた。(ターゲブラット誌上)

氏の見解によると日本の對外貿易は一九三一年に十一億圓一九三二年に十四億圓、一九三三年十九億圓、一九三四年二十二億圓といふ風に増加したけれども一方圓價は下落してゐるから之を馬克にかへてみると、一九三一年に二十三億六千萬馬克であつたものが一九三二年には十六億八千萬馬克に激減し、一九三三年には十五億八千萬馬克に下り、一九三四年になつて漸く十六億二千萬馬克に達したにすぎない、即ち日本は何も別に躍進したのではない、但し右馬克價に換算するのは正しくはない、日本の國內物價の圓價は上騰してゐない、金相場と物の相場と一致しないからであるから圓の物價を卸賣指數で換算しなくてはならぬ、この計算に従へば一九三一年を一〇〇として一九三四年は一六三となり、右の十六億二千萬馬克に相當する、従つて一時喧ましくいはれた日本商品の侵略といふものは事實驚くべきものではない、換言すれば日本の輸出貿易の發達は左程大きくはない、之を地方別に觀察すると日本の對北米輸出の如き一九三四年に激減した、一方中米・南米に増加したけれどもその數字は大きくない却つて獨逸の對中南米輸出は日本よりも一千万馬克及び一億七千七百萬馬克がそれぞれ多い。

日本の輸出が増進したアジア諸國で支那・印度・セイロン・馬來・比律賓・シャム等でも、それは日本品のみが増加したのでなく、獨逸品も同年三千四百萬馬克を増加し、一般的に日本品が増加した地方では獨逸品も亦共に漸増した、今日本

と獨逸との輸出増加の比を見ると

一九三四年度日本

一九三五年上半期獨逸

亞細亞 一〇・八％増

一五・七％増

歐洲 九・七％増

八・四％減

北米 二八・一％減

二・〇％減

中米 一二・八・六％増

四二・五％増

南米 七七・〇％増

二七・九％増

アフリカ 一六・二％増

一・八％減

濠洲 七・一％増

〇・一％減

となつてゐて日本品が獨逸品を驅逐したと見るべき理由がない、アジアでは獨逸の増加は日本を凌駕した、中米・南米で日本の數字が大きいのは其前年度の輸出が僅少であつたため、現に日本が一九三四年に對中南米へ三千四百萬馬克を増加したとしても、一九三五年上半期に於て既に獨逸は三千四百萬馬克を増加してゐる、對歐洲の日本品増加は僅に千五百萬馬克で、獨逸と無關係のものばかりである、たゞアフリカ市場では日本品が獨逸品の上にこした。

獨逸中央統計局で精細な調査をやつた結果、日本の輸出貿易が近來各般の商品に亘り且新市場に進出したのは事實であるが、之を概括的に見れば未だ先進輸出國の貿易に打撃を與へたるの事實を認むることが出来ない。日本品の賣れる土地で獨逸品も同時によく賣れてゐる例が多い、世界復興の途上日本の現出は有力であるが、日本も亦其輸出品に對して同様

の輸入を必要とする、従つて日本が輸出貿易に躍進したとしても、特別の危險を他國に與ふるものではない、工業國相互間に於て一層交易工作を盛んならしめるならば日本の進出は寧ろ歡迎されなくてはならぬ。

○スーダンの地理

アングロ・エヂプトスーダンは埃及の南方、ウガンダ保護領及白領コンゴの北で面積約百萬平方哩、西は佛領赤道アフリカ、東はエチオピア、エリトリア及紅海に境し、其地域の四分三以上は岩性の砂漠（砂漠ときくと砂があるやうに考へてはならぬ、この邊は岩ばかりの不毛地である）無價値な沼澤とで、北東と西方は降雨全く無い荒地である、南方は沼池が多く、農業に適しない、ナイル川がこの國を貫流し、青ナイルがこれに注ぐ、この二つの川の間だけスーダンの最重要地であり、ナイルが灌溉と交通の動脈である、一八八一年から十七年間マーデといふマホメット教徒の手に入つた、この時ゴールドン將軍が殺されたので英國がこの地を征討した、キチナー元帥が八千の英兵と一萬七千の埃及軍で平定したために英埃二國の統治地となつた。

人口は稀薄で一九三二年五百五十萬であり、沙漠半沙漠にすむアラビヤ人と、アラビヤ人とニグロの混血ヌビアン人と南部不毛地のニグロの三人種がすむ、人口集中の都はカルツーム、及び土民の都市オムツルマン、及びゲジラ地方の中心市ワドメディンを三大市とし、海港には紅海のポートスダン、ナイル流域の中心アトバラ、鐵道西部支線の終點エルオ

ペイド等がまづ都市らしいものでワヂハルファ・カウサヲ・ケダレフ・トカール・スアキンなどの商業中心地は青ナイルの東にあり、ナイル上流にはマラカル・コダツク・ワウ及びジュンバ等の貿易地がある、當國の最西端エルファシアはゴムの取引地だ、五百餘萬の人口のうち歐洲は五千九百人にすぎない。土人以外の西アフリカ人はメツカとの間を往來しよく勞働をするので、棉花栽培の勞働者として雇はれた、西アフリカの黒奴の移住なくしては棉花は出来なかつたであらう、何となれば土人はすべて慾望がない、原始生活者だからであつた。

氣候はスーダン全土の四分三以上、雨が少いので農業が出来ず、僅に二十五萬方哩の土地が雨季に雨を見る程度である、故にこの雨のふる所でも一年の間に一度は沙漠か半沙漠に化る、暑熱甚だしく雨がふつても涼しくはならぬから英人は雨季には、すべて此地を去る、白人は二年以上引きつゞきスーダンに滞在したら病氣になるといはれる、おまけにこの沙漠半沙漠地では一年一定の期間に激烈なる砂の暴風がやつてくる、この間はとても生存が出来ない、五月と六月が暑き最も甚しく平均氣温が三十度を越える、英國はこの地で棉花を栽培して北米合衆國から棉花の獨立をはかつたが、年産二十萬六千俵をこしたことがない、とても豫想した收穫はとれさうにない、ゲジラ地方で灌溉をやつて棉花をつくつてゐるけれども熱帶高原の平地で排水が出来ないから、うまくゆかぬ

ナイル沿岸の氾濫地の棉花も、氾濫が不規則だから棉作發も展しにくい、おまけに土人はなまけてゐるから駄目だ、降雨不充分的な地方で穀類や甘蔗をつくつてゐるが、數千の土人は毎年失敗してゐる、鐵道の線はあるが、奥地はトラツクによるにしても道路がわるく、ガソリンが高い、やつぱり路駝の隊商が動く程度である。

一九一一年政府は棉作見込地三萬五千噐、棉花生産七千三百九十四俵を得ると發表したが、この豫想は容易に實際にならなかつたけれども一九二四年に三萬俵はとれた、一九二四年ゲジラ堰堤の完成によつて忽ち耕作面積六萬噐になつた一九三一年には更らに増加して三十八萬噐となり、收穫の最大二十萬六千俵になつたが、地形と地質がわるい、耕作地の過半は河水灌溉であり、一部はポンプ灌溉であるが、堰堤は青ナイルに設けられてゐて、そこから灌溉用水をながすのだゲジラとは青白ナイルの間に横はる三角形の平原で、スーダン第一の棉花栽培地であるが五百萬噐のうち三百萬噐は灌溉可能である、平均年十六萬七千俵位しか出来てゐない、最初は灌溉さへやつたら出来るつもりであつたところ、不幸にして地下數呎の下に重い粘土がある、水が浸透しない、そこで下壤排水が出来ぬ地表は平坦だから地表排水も満足でない、夫故にゲジラの平原の排水は主として蒸發にまかされる、しかしこの方法は過剰水を排除しても、水中の鹽分を土壤中にのこす、故に灌溉を年々やつてゐると鹽分堆積のために

棉花がつくれなくなる、加ふるに病害ブラックアームといふ害虫の襲撃がある、それは水はけがわるく、灌水後雨がふる和一時位も水がたまつて、數日間水がひかない、温度でも下ればこの蟲は得たりとばかり八月初旬に植付けた苗を枯してしまふ、故に二ケ年又は三ケ年の休耕をする、しかし鹽分の解消は不可能だ、故にこの棉花は最初の計劃の通りに進まない、西阿の黒奴も賃金が支拂はれない土地に居なくなると、アラビヤ人の耕作者等は自身勞働するか、砂漠に復歸するか他に方法がなくなつた、踏留まつて農耕をやつてみても勞働の代償が無くなつた。

ナイル峡谷ではカルツーム附近でやつてゐるが、この邊は主人の食料生産地であるから、棉花は僅に一萬三千俵しかとれない。

いづれにしても熱帶スーダンの沙漠地で棉花を栽培し、それによつて米國からの棉花供給を防止せんと企ては現在では失敗である、エチオピアのタナ湖に堰堤をつけて灌漑の便をはかるにしても、少くともゲジラ方面では見込がない、むしろ下流埃及の棉花栽培を補強するにすぎない。

伊太利がエチオピアを争ふにつれて、英國も最大の關心をもつエヂプトスーダンはまづはかうした土地である、アフリカの岩性沙漠もしくは粘土沙漠いづれも大したものではない。(藤川)

○グワテマラ國

グワテマラは中米の最大國で經濟上輕

視すべからざる國で好景氣の時代には輸出入共に三千萬弗を遙に超えた、不景氣な一九三三年すら輸入は千五百萬弗もあつた輸出も九百萬弗を超えたのだから、日本もその輸入は常に二十萬弗を超え一九三四年には五十萬弗を超え、同國產物の購入者たる米・獨等の商人は、本邦商品の進出に悲鳴をあげ、遂に本年初頭に主として本邦品進出阻止を目的として十割關稅賦課法が制定された、然し本邦商品ことに綿糸布の好市場として目せらるゝこの國の諸港へ本邦船舶の寄港したることは今日まで決してなく本邦の輸入品はすべて桑港又はパナマにて積替へ輸入されてゐるので運賃其他の諸掛がかさむのみでなく、本邦と直通航路のなきことは貿易上の大なる阻害である、英・米・獨・佛・蘭・諸・丁・伊いやしくも海運に關係ある國の船でグワテマラの港に寄港しないものゝない今日、本邦船も速にこの地に寄港する策に出なくてはならないサン・ホセ港はこの國第二の港であるが一九三三年外國船の寄港せるもの二百十九隻に上り、輸入百十萬弗、輸出六十二萬弗を算した、メキシコのアカプルコとパナマとの中間、太平洋側の要港だから、日本船もその沖を通つてゐるのである。も一つチャンペリコといふ港も太平洋岸の良港であり、メキシコ灣岸にはリビングストーン港とアエルト・パリオス港がある。最後のパリオスがこの國第一の港であつて輸出入合計一千萬弗以上、チャンペリコとサンホセとは伯仲の港である。

○英國への罐詰食料品

英國では一八二二年スコットランド・アバデーンで肉類罐詰工場が開かれたといふ古い話がある、やがて魚の罐詰も出来て肉類を驅逐し、大戦中に果實と野菜の罐詰が始まつてカンニング工業といへば果實及び野菜のことになつてしまつた、そこで其工場も一九二四年六工場のもが一九三四年七十一工場に増加し三四百萬箇の生産が一億二千萬箇に増加した、李(プラム)・莓・ラースベリ・レッドカーラントの類の罐詰が盛んで、アスパラガス鹽元豆・菜豆・ニンジン・防風・豌豆などの野菜の罐詰も盛んとなつた。しかし英國内の生産は到底需要に及ばず生産額の九倍以上の輸入がある、輸入の第一は果實で、魚類と獸肉これにつぎ野菜は一番少い。

英國へ輸入さるゝ罐詰のうち日本に關係のあるのは鮭と蟹の二つである、其額年々十三萬兩八十萬兩で本邦から輸入品生絲及絹織物について第三位をしめる、露領沿海州産を加へたらこの割合はずつと増加する、日本の外に米國二十萬兩、カナダ十二萬兩、ロシア四十萬兩、日本は十萬兩といふことになつてゐるが、このロシアのは日本人の捕つた鮭である、蟹は日本から四萬兩、ロシアから一萬二千兩といふが、これもすべて日本人の捕つたものである、一年に六、七百萬兩。

鮭はサーデンとビルチャードの二品種がある、サーデンは元來サルデニア附近でとれた鮭のこと、同品は葡萄牙が第一位、七萬兩、佛國が第二位一萬兩、その他は少い、そこで

日本の鮭はビルチャードであるが、其外親も味もサーデンと變化がない、日本から一萬兩位輸入され前途有望である。

練はノルウェーの輸入が第一、五六千兩、その他は云ふにたらない、英國自身の水産界の覇王であるし、英國から練の鹽漬や罐詰の輸出がある、しかしこれも日本から進出の望がないとはいへぬらしい。

ついで果實では杏・カーラント・桃・鳳梨・梨・李の七品種が輸入される糖分不含有品とシラップ漬即ち糖含有品とに區別して税金をかける、野菜と共に最近に發展したものであるが、西班牙の杏十二萬兩を第一とし米國や濠洲・加奈陀から種々とりまぜて二十萬兩を輸入する、シラップ漬(糖含有品)の方は年々増加し、一九三三年鳳梨の七十九萬兩、梨七十二萬、桃六十八萬、杏二十二萬、カーラント類は六萬といふ順序である、このうち鳳梨は日本から(臺灣品)輸入され九千萬兩一萬三千兩に達した、海峽植民地・馬來・布哇・米國・濠洲いづれも日本よりは多く輸入する。

梨は米國第一五四萬兩、濠洲・加奈陀の順序であるが本邦の洋梨も見込がある、桃も米國や濠洲から五、六十萬兩を輸入する。近年日本でも黄肉の良種がつくれだしたから、將來桃の糖漬罐詰は見込が多い。其他林檎・櫻桃・蜜柑など輸出に適するが、これらは生果としての輸入の見込が存しうると考へられる。

○佛領印度支那の棉花栽培

數百年の昔から印度支

那の土人の手で棉花は栽培されてゐたが佛領以後栽培を組織的にはじめたが、其綿糸製造は、佛本國の綿工業品の賣込を妨ぐるために發展は中止した、しかし棉花栽培地は東京・安南で千數百萬ヘクタールに達す、其最も重要なカンボヂヤの二萬五千ヘクタールの栽培地で、主としてメーコン河氾濫の水の達し得ない高地にある。棉花は濕氣少く冷しき地方で腐植土にとむ河川の沖積地に適し、十一月に米を刈取り其後土地を入念に地均らしをして施肥の上一月中旬に播種する花は四月の末にさき初め一ヶ月の後成熟する、七月に米を植付けるため、その以前に收穫を了つてしまふ。

カンボヂヤでは雨季の間水がつかつてゐるとを主とし、減水期に入ると、八、九月の頃に既に地均らしをする、十月の末から十二月の初めにかけて、晝夜二十四時間水に浸した種子を八〇糶の間隔で一線に播く線と線との間は一米である、雜草をとることが注意される、三月に種籾が成熟するから五月に收穫する、出来たものは支那輸出商にうる。

印度支那の棉花は年によつて出来がかはる、其纖維は一八糶から二四糶以上に出でず、すべて短少で品質よろしからずそれは乾期が早魃にすぎたり、雨期が早すぎたりするからである、東京や安南ではどうしても人口が多いから米作の裏でしなくてはならぬがカムボヂヤは人口稀薄だから雨期でも棉花の栽培が可能である、國內では棉工業が發達しないので棉花は主として支那・香港・日本へ輸出される。

外國の埃及や米國の良種を移してみてもあまりにデリケートで失敗した、そこで東蒲塞の原産品を改良せんと苦心してゐる、その良い品種は印度でも賞讃される位に優良品となるといふことである。

○シアトル港

シアトルは天然資源に豊富なる米國西北部地方の中心でアラスカの富源を具へ極東への門戸として重要な航路の中心である、この港の背後地としての第一は木材業で、其就業者はこの港を中心として生活してゐる、木材地は九百六十一萬エーカーの華州國有林、七百五十億呎の生木を有しダグラスファア區域といはるゝ丈けに、ダグラスファア・スプルース・シダー・ヘムロック・ツルファア等の良材にとみ、ヘムロックとツルファアは主としてバルブ工業原料に適し當港では最良のサルファイドバルブを輸出し、五十二萬三千短噸を産出する、又ヴェニニア・ブライウッド工業も盛大で、其木材消費一億五千萬呎に達すといはれ、日本への輸出材は一億五千萬呎に上つた。

つぎに沿岸漁業をみると、北太平洋・アラスカ海岸の漁業の本據をなし、その魚類の集散と製罐で年收五千萬弗に上る本年度に於ける當港水揚げの生魚は四千四百三十萬封度、價格四百五十七萬弗に上つたが、第一は鮭で、レッド・チヌーク・コーボ・ピンク・及びシャム種がとれる、この州とアラスカとで全世界の鮭の八割をとる、第二に鯡(ハリバット)も世界の最大産出地でアラスカ方面で四千七百五十萬封度、こ

の中三千七百七十萬封度即ち七割は米國船の捕獲である、シヤトルは二〇、七一八、三二八封度を水揚げしたから、世界第一のハリバット港である。

鑑詰は三十八萬七千個に上り其價四百五十七萬二千非となつた、過去十年間の産を合せて世界本品産額の八割八分に達する。

冷凍及鹽魚としては鮭・鯡・黑鯡で外に薄鹽鮭や鹽鯡の少量があつた。

本年中この港から日本への小麦と麥粉は、前者一一、九五四噸、後者三一三噸に上つた。

本年當港對外貿易は輸入三千六百萬弗輸出二千四百萬弗、内對日貿易は輸入約一千萬弗輸出五百萬弗であつたから日本側の輸出超過は四百六十萬弗を超へた、かくて對日輸出は日本第一、英本國・カナダ・支那の順序であり一九三五年上半期に於ても日本側の出超二百萬弗に上つてゐる。

こゝには極東航路に従ふもの十八社に達し、シヤトルから日本へ寄港するものは左の十五社である。

アメリカン・メー	月二回	青崎	月二回
カナダ太平洋汽船	月一回	極東アジア	月一回
ギルドウツド	不定期	川崎汽船	月一回
シツピング	月一回	三井物産	月一回
國際汽船	月一回	日本邦船	月二回
三菱商事	月一回	日本邦船	月二回
パシフィックコースト・チャイナライン	不定期		

ソルンダイク 不定期
ユナイテッド・オーシャン・トランスポート 月一回

以上十五社の外に中南米航路十一社、東西兩岸航路十九社、歐洲航路十六社、太平洋岸航路十九社、アフリカ航路二社、濠洲新西蘭航路二社、アラスカ航路二社、總計八十一社に達する。

○玉葱と馬鈴薯

比律賓へ輸出さるゝこの二つの野菜は米國産と競争して日本品が斷然芽をふいてゐる、關稅賦課にかゝらず價値が低廉なために進出したもので、

玉葱

米國品 百封度入三ペソ四十仙 四月―七月出廻

日本神戶出、百封度二ペソ十仙 六月―八月出廻

同 北海道産、百封度二ペソ九十仙 九月―十二月出廻

馬鈴薯

米國品 百封度入三ペソ六十仙 四月―七月出廻

日本神戶出、百封度入二ペソ八十仙 六月―八月出廻

同 北海道産百封度入三ペソ二十仙 九月―十月出廻

右の結果、一九三五年上半期玉葱で米國品五六五、九二五担五萬四千ペソに對し日本品は五百萬担十二萬五千ペソを輸出して第一位をしめた、馬鈴薯も米國産百三十萬担九萬五千ペソに對し、日本産四百八十萬担十一萬ペソに達して他國の追隨をゆるさない、しかし日本産の生果實及其鑑詰は今日迄の處日本人向で、まだ米國品と太刀打が出来ない、生果は加州

品に比べて永續しない、變味腐敗の恐がある、林檎とオレンジ及葡萄がその品目で、日本側がまけてゐる、罐詰の方は材料と製造方法は大體米國品と同一程度になつたけれども容器とレットルがまづい、蔬菜の罐詰も同様であるから今一つ奮發したならば華果・オレンジ・梨(生)・葡萄(生)・文旦(生)栗(生)をはじめ、乾葡萄・パイナップル・罐詰・饅頭・にんにく・甘藷・豆類罐詰・トマト・コーン・大豆(乾)・豌豆(乾)漬物等、日本品の進出可能が多いといふことである。

○波斯灣に於ける日本商品

波斯及アラビヤ・イラク

いづれも通貨の缺乏によつて、品質如何にかかはらず廉價品に對する旺なる慾望に乗じて、日本品は一九三三—四年度に於て凄まじい進展をせしめた、日本商品は例外なく競争國の商品よりも安價であつた、日本商人は各都市で見本市を開いて宣傳した。就中、綿布・陶磁器・硝子器・小間物類は波斯灣一帯を風靡して一躍市場の覇權を得た、但し日本製セメントは英・伊・ユーゴスラビヤ・バルカン諸邦の製品と競争したが品質に劣つてゐて勝てなかつた、日本米がパーレイン及びコウエイトで賣られたが、印度米は爲めに打撃をうけた日本製燐寸も亦到る所の都邑に顔をみせるやうになつた。

日本品の進出によつて蘇聯邦の貿易は著しく衰微した、勿

論他國の貿易もおとろへたが、ロシア品は一九三二年以來洪水の如く波斯灣に入つた日本品に壓倒されたのが主原因であつた、同時にソウイェトとイランの間に經濟上の紛争があるので幾分の影響を呈した、一九三一年一時ロシアは砂糖と燐寸の輸入に成功したが、一九三二年の末になつて、ロシアの取引方法が輸入を過分にしたといふ廉で遂に兩國の貿易は停止された。

英國品は綿布で減退し、機械で優位である、セメントも品質がよい、自動車もよく出るが、米國品にはかなはぬ、英國の砂糖も可なり輸入されたが、本年度は減退して白耳義とオランダの砂糖輸入が増加した、最後に印度茶は完全にアラビヤ側市場を獨占した、以上はブシール英國領事が本國へ報告した要項であるが、少しく日本商品の進出を大袈裟に見すぎである、日本は輸入することなしに輸出してゐるといはれ、従つて日本船の復航に積荷がない缺點があるけれども最近モトメラから大量の原棉を輸出しはじめたから、この傾向がつゞく限り商賈はつゞくであらう。一九三三年度に日本船三隻ブシールに入港した、之を英國船の一年間入港船一九六隻に比べると、日本商品の努力はまだ不十分であるといはねばならない。